

企画展『新収蔵品展』 第2民芸館

同時開催『手仕事の優品展』 第1民芸館

～5月29日(日) <観覧料 無料>

当館では民芸の普及・啓発のため、日頃より優れた資料を収集しています。今回は平成26年度から令和2年度に収集した資料のうち、未展示資料を中心に紹介します。

《主な展示資料》

日本民藝館展の優品、土人形やこけしなどの郷土玩具、衣焼などの陶磁器、編組品、有松・鳴海絞りなどの染織品、手漉き和紙など



しめ縄 祝酉 甲斐陽一郎
平成29年度日本民藝館展入選

企画展 雑誌『工藝』の美 第2民芸館

同時開催『名誉市民 本多静雄コレクション展』 第1民芸館

6月7日(火)～8月28日(日) <観覧料 無料>

昭和6年(1931年)に創刊した『工藝』は、柳宗悦を中心に編集刊行された月刊誌です。それは、雑誌そのものが「工芸的な作品」であるべきという発想のもと、「民藝」のコンセプトを全国に広める重要なメディアとして機能しました。本展では、機関誌『工藝』全120冊を一堂に展示するとともに、豊田市民芸館が所蔵する民藝作家の作品を紹介します。

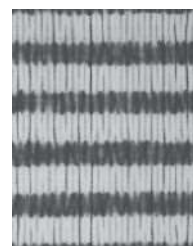


機関誌『工藝』

特別展『藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事』(特別協力:日本民藝館) 第1・2民芸館

9月13日(火)～12月4日(日) <観覧料 有料>

藍染絞りの第一人者として知られる片野元彦(1899-1975)が絞りの道に専念したのは57歳の時、日本民藝館創設者の柳宗悦(1889-1961)に、産地である有松・鳴海の絞りの仕事を再興するよう託されたのがきっかけでした。以降76歳で亡くなるまで「絞染職人」として、天然藍を中心に植物染料を使った絞り染の着物や服地、暖簾や飾布など、生活の中で使用される布の制作に邁進しました。本展では、片野の絞り染作品に加え、書簡などの関連資料や写真、父・元彦の仕事を献身的に支えて父の死後も真摯な仕事を生涯続けた絞り染作家の長女・かほりの作品も紹介します。



木綿地藍染筋立段紋折巻絞広巾
片野元彦 1970年代前半

特別展 全国郷土人形展(仮) 第1・第2民芸館

12月17日(土)～5月7日(日) <観覧料 有料>

郷土人形は、江戸時代中頃より節句物、縁起物として日本各地で制作されました。庶民の間で身近な紙、木、土といった材料で作られた人形には、暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められたのです。本展では、京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形など、素朴な美しさをたたえた全国各地の郷土人形を紹介します。



東北の土人形(江戸期) Photo by Tetsuo Ito
後列 左より 花巻(花巻)、堤(仙台)、相良(米沢)
前列 左より 根子町(福島)、鶏渡川原(酒田)、附馬牛(遠野)

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和4年 5月22日(日) まで		令和3年度民芸館講座作品展
5月31日(火) ～	7月31日(日)	暮らしのなかのガラス展
8月7日(日) ～	8月28日(日)	みんなの作品展
9月3日(土) ～	10月23日(日)	館蔵 藍染の絞り
10月29日(土) ～	11月27日(日)	第8回 伝承拳母木綿展
12月3日(土) ～	令和5年 2月5日(日)	郷土玩具展 干支と卯
2月21日(火) ～	5月21日(日)	令和4年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。